Model Course ⑬

流谷から岩湧寺・天見不動

（ながれだに　いわわきじ　あまみふどう）

【葛城第十五経塚（岩湧山）】
【葛城第十六経塚（流谷金剛童子）】
【葛城第十七経塚（天見不動）】

里にある経塚から山上の経塚へ
岩湧山周辺の３つの経塚をめぐる

和泉山脈の名峰、岩湧山は、ススキの広がる高原状の山頂で知られる。しかし、その名は読んで字のごとく、岩が湧き出るように峻険であることが由来で、修験の地として栄えた岩湧寺周辺の様子を表している。

天見駅から西へ、国道を出合ノ辻で横切り、流谷の集落へと入っていく。川向かいに古社の八幡神社があるが、神事に使われた南北朝時代の湯釜が伝わっている。下山に使う砥石谷を左に見て、緩やかに登っていくと、葛城第十六経塚流谷金剛童子の道標があるので、川を横断し、畑の際を通って竹藪の中の経塚を訪れる。

ここから行司河原分岐までは、竹ノタワと呼ばれる峠を越え、カタツムリトンネルを抜ける長い道路歩きだ。行司河原分岐からは南に進路をとり、岩湧寺のある「岩湧の森」を目指す。いくつか駐車場を見送り、第2駐車場を過ぎると岩湧登山古道の入口があるので、入っていく。すぐに右の「おちばの小道」に入って四季彩館を経由して、岩湧寺へ。第十五経塚は岩湧寺の先の道路をたどってゆく。坂を上ったカーブで右手に案内表示があるので入っていくと小ピークの先に経塚がある。

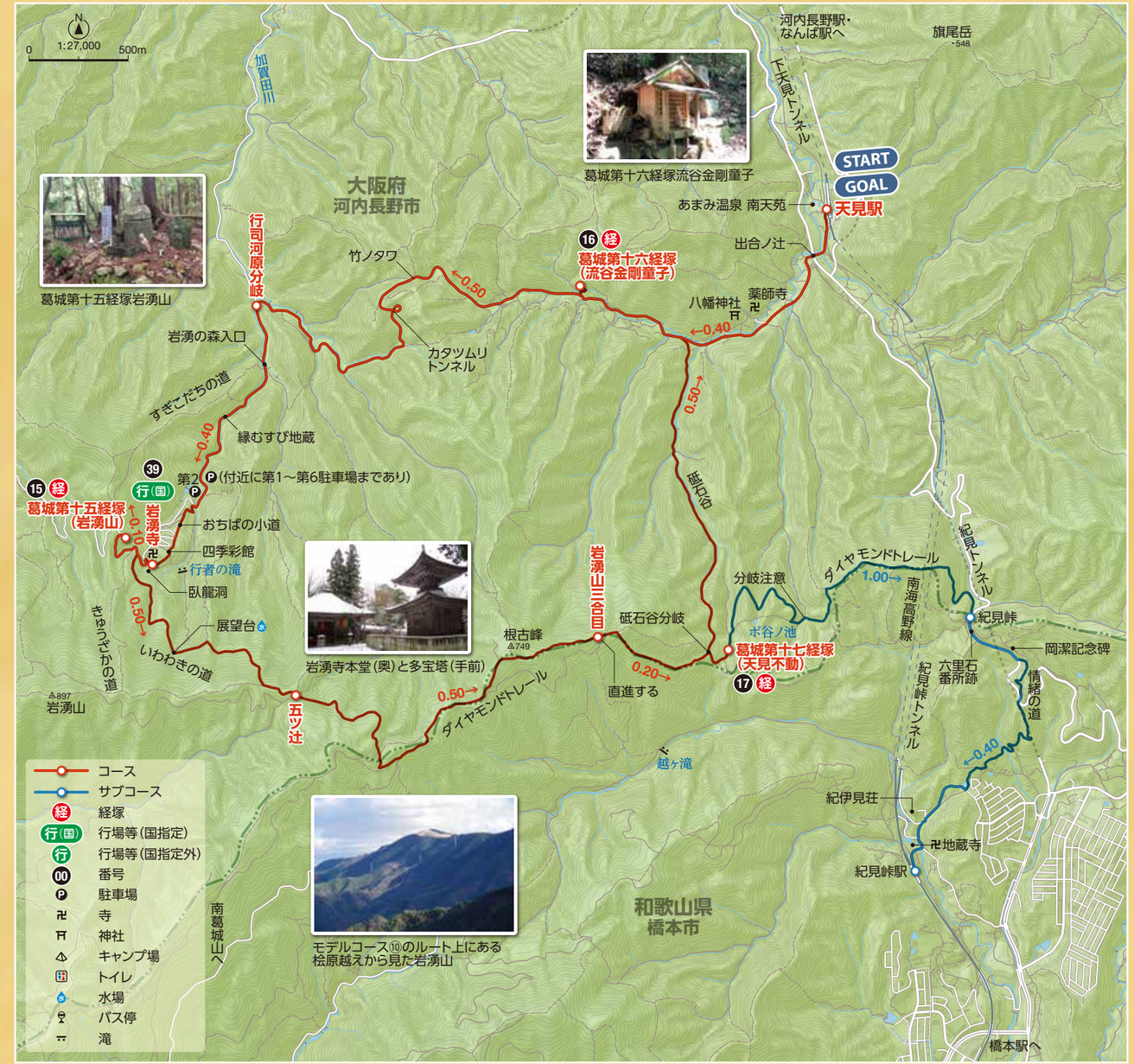
少し戻ってハイキングコースの「いわわきの道」へ。いわわきの道は展望所を経て五ツ辻の手前でダイヤモンドトレールと合流するので、紀見峠の表示を目指して進む。しばらく平坦路だが、下りになると三合目に着きその先で急坂となる。平坦になったところで砥石谷の分岐があるが、ここは見送り進むと、第十七経塚の天見不動がある。天見不動を拝したら、分岐まで戻り砥石谷への道をたどる。行きに歩いた道路に出たら、天見駅へ。

歩行距離 ◆ 約16km	体力レベル ☆☆☆
歩行時間 ◆ 5時間10分	登山レベル ☆☆★

コースタイム

START 南海高野線天見駅
↓ 40分
葛城第十六経塚
↓ 50分
行司河原分岐
↓ 40分
岩湧寺
↓ 10分
葛城第十五経塚
↓ 50分
五ツ辻
↓ 50分
岩湧山三合目
↓ 20分
葛城第十七経塚
↓ 50分
GOAL 天見駅

※歩行距離は水平距離、コースタイムは一般的なペースで歩いた場合の休憩時間を含まない参考タイムです。

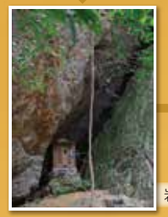


※実際の修行の道とは異なります。

コース情報

八幡神社付近から、天見富士の旗尾岳を見上げる

おちばの小道を登り岩湧の森の四季彩館へ


岩湧寺の臥龍洞

ダイヤモンドトレールの五ツ辻。ベンチがある

天見不動はダイヤモンドトレール上にある経塚だ

アクセス

往復

南海高野線天見駅

アドバイス

本コースでは3つの経塚をめぐるが、天見不動以外はわかりにくいところにある。岩湧寺からは登山になるので、トレッキングシューズで臨もう。余力があれば、ダイヤモンドトレールをそのまま紀見峠までたどっても面白い。